

管内各小・中・義務教育学校において、「**学校・家庭・地域との協働による防災訓練の推進**」や「**防災教育コーディネーターを中心とした家庭・地域との協働による取組の推進**」等、**学校の組織的な取組**が進められています。以下に、2学期の取組状況から「**成果が表れてる**」と報告された取組事例を紹介します。自校の安全・安心な教育環境の確保に向けた参考資料としてご活用ください。

「防災教育(避難訓練)」 取組①

日田市立東溪中学校

火災を想定した事前予告なしの防災訓練(12/11実施)

「避難梯子を使用した避難の様子」や「消火器を使った消火訓練の様子」等



ポイント!

全職員、全教室で共有している「アクションカード」を訓練後、即アップデート

□学校火災対応のためのアクションカード

授業者: _____ 自教室以外が火元の場合

避難・誘導

目的: 生徒を迅速に安全な場所へ避難させる。

火災報知機がなったら

- 避難準備をし、緊急放送を待つ。火災元が分かるまでは待機。
 - 現在の生徒数の確認
 - ヘルメット・マスク(ハンカチ・タオル)着用指示。
- 緊急放送での「避難指示」後、避難開始
 - 火元より遠い階段(非常用はしご)から避難
 - 防火扉が閉鎖時: 直に注意! くぐり戸は人が通るときのみ開閉
 - エレベーター使用×
 - 低い姿勢で、ハンカチを口にあて、逃げるよう声掛け。

避難後の対応

- 避難場所へ到着後、生徒全員の避難を確認。校長に報告。
- 報告方法: 学年主任→校長(生徒指導(不審者対応)→校長)
- 生徒が容易に隠れるまで、適切な位置に留まる。
- 校長や教頭からの指示を待つ。

※ 生徒の心のケアも重要。消火に声をかけ、落ち着かせることを意識。

全職員共通のポイント

- 冷静な判断: 火災発生時には迅速かつ冷静に行動することが最も重要。
- 情報の伝達: 既知放送やインターフォン、緊急放送(非常ベル)を駆使し、スムーズに情報伝達を行う。
- 安全第一: 安全確保を最優先に行動する。

※アクションカードはインターフォンに備え付けておく。2026.1.8 第2版

日田市立光岡小学校

「ネットランチャー」と「さすまた」を使った不審者対応訓練(11/12実施)



警察の方を招いて実践的な研修を行った。

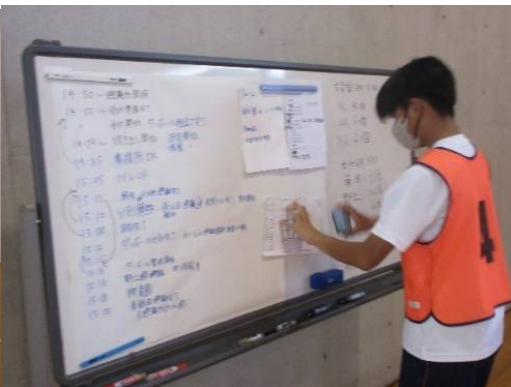
アクションカードはインターフォンに備え付けておく

2026.1.8 第2版

「防災教育(避難訓練)」 取組②

九重町立このえ緑陽中学校

防災講話 避難所開設訓練(9/5実施)



防災・減災アドバイザーである吉田亮一氏(宮城県仙台市在住で東日本大震災を経験)を招聘し、大規模地震への日常からの備えについて講演をしていただいた。その後、吉田氏の指導のもと、生徒が主体となって避難所の開設訓練を行った。実際に避難所が開設された場合に「自分たちができること」を体験し、考える機会になった。

「防災教育(避難訓練)の取組」 成果

①実践的な避難訓練の実施

- 咄嗟の判断力と行動力を養うため、時間を告げずに実施し、消防や警察等の関係機関からも高い評価をいただいた。
- 1学期の早い時期にあらゆる災害を想定した訓練を行うことで、防災意識を高めることができた。
- 防災士、防災教育コーディネーター、防災・減災アドバイザー、警察、消防署員などから専門的な指導・助言を得られた。
- 教職員・保護者対象の救命救急講習や、地域防災士を招いた不審者対応等、実践的研修を行うことができた。
- 教職員や関係機関で課題を共有し、次回の訓練で改善策を試行した。

③学校・家庭・地域の三者連携

- 学校・家庭・地域の三者で実施。回数を重ねることでスムーズな連携ができるようになった。
- CS委員や地域住民が訓練を評価し、改善案を学校運営にフィードバックした。
- 公民館や地域団体と連携し、避難所設営や仕切りの作り方を共同で学習した。
- 防災士会、学校運営協議会を招いて引き渡し訓練を実施。訓練での意見を集約し、保護者全体会や学校運営協議会で報告・共有することで、地域全体の防災意識の向上を図った。